

施設長	副施設長	部 長	課 長

令和7年度 地域連携推進会議 議事録

開催状況

事業所名:砂川希望学院 / 共同生活のぞみ・GH 花笑み

日 時:令和7年8月28日(木)13:00～14:00

場 所:希望学院 施設長室

参 加 者:利用者 2 名

利用者家族 1 名

地域の関係者2名(近隣住民、砂川市福祉課の方)

福祉・経営に知見のある人1 名(近隣施設の方)

事務局 5 名(施設長、副施設長、部長、サビ管 2 名)

議題内容

≪出席者の紹介≫

≪利用者との面談≫

入所利用者 1 名、地域支援利用者 1 名に、事前用意の質問例を参考に、委員の方から質問していただく。

・今日の給食は何を食べましたか？給食は美味しいですか？

→うどんとバナナを食べた。野菜は残す。

・行事は楽しいですか？

→花火大会(自治会主催)やったり、盆踊りやったりした。

・生活していて困ったことはありますか？

→わからない。

1. 施設と地域の連携

施設・グループホームの紹介

一日の流れ、休日の支援

課題

【施設入所】高齢化、重度化への対応。お祭り、花火大会での地域との交流。

【地域支援】日中支援型においては看取りに近い事例への対応力向上が課題。介護包括型においては、65 歳問題と地域との交流の確保が課題。

2. 事故・災害への備え

避難訓練、BCP、感染症対策について

過去の災害について～平成 29 年 8 月台風、平成 30 年 9 月胆振東部地震

コロナ対応の現在～防護服対応・マスク対応を一部緩和も、標準的な感染予防は継続。

3. 利用者の権利擁護

虐待防止について～虐待認定件数 0 件。虐待通報 1 件あり、該当市町村・空知支庁に報告するも認定にはならず。毎月、虐待防止委員会を開催し、支援現場での意識向上を狙う。

意思決定支援について～入所利用者、地域支援利用者どちらも、今後どのように生活していきたいか、終末期の過ごし方、亡くなった後についてなど、本人とご家族と確認し、支援につなげて行く。

課題

【地域支援】「しつけ」ではない「支援」について、支援員・世話人が理解し、利用者の普通の暮らしを支えていく必要がある。

構成員からの質問、要望、感想等

- ・平成 30 年の地震による停電時、非常用発電機の動力である軽油は、平時の作業用を転用したということだったが、災害時用に別個に用意しておく必要があるのではないかと。
- 会議当日はその必要があるとの結論に至りましたが、後日確認したところ、昨年の非常用発電機の交換により、軽油が常に数日分ストックされる方式になっておりました。
- ・施設の中に入るのは初めてだったが、午前の見学では、グループホームの施設も清潔に保たれていて、利用者の皆さんの表情が明るいのが印象的だった。
- ・創作活動の作品や利用者居室のドアに写真が飾っており、楽しそうな様子が伝わってきました。グループホームの朝食について、食卓便を使って、利用者同士で準備を行うことで、世話人の勤務時間を夕方によせている点は一つのやり方と感じた。

その他

- ・次回開催は未定、令和 8 年度。
- ・施設訪問について、会議当日午前にグループホーム 4 カ所、砂川希望学院入所施設を見学頂き、昼食に学院の給食を召し上がっていただいた。
- ・利用者さんがとても緊張しており、リラックスしてお話できる工夫が必要。